

2020年6月7日(日)朝10:10～ 復活節第9、自由交歓会等
6月第1聖餐総員共同主日礼拝式説教 日本アライアンス庄原基督教会

説教題：種まきの譬えと説き明かし(23)

聖書:マタイ 13章1～9、18～23節

<口語訳>

新約聖書20～21頁

マタイ 13章1～9、18～23節

<新共同訳>

新約聖書23～24頁

マタイ 13章1～9、18～23節

<新改訳第3版>

新約聖書24～26頁

マタイ 13章1～9、18～23節

<塚本訳>

新約聖書105～107頁

主題:主イエス様から賜った聖霊の導き

によって主の弟子たちは、主の名による
神の罪からの救いを宣べ伝えたように、
私たちも、福音を伝えたい。

序論；

- ◇**マタイ書**は、**使徒マタイ**が、**ユダヤ人**の立場で**王なる救い主(メシヤ)**なる**神の御子イエス・キリスト**を証言した記録です。
- ◇**マタイ5～7章**は、**神の御子イエス・キリスト様**の**山上の垂訓・説教**と表現される箇所です。
- ◇本日の**マタイ13:1～9、18～23節**は、「**種まきの譬えと説き明かし(23)**」で、主は、弟子たちを励ましておられるのです。
- ⇒**ユダヤ人指導者**は、**神の律法**を説き明かすことができましたが、「**御子イエス・キリスト様**」を「**悪霊のかしらベルゼブル**」とし、「**悪霊**」を追い出しているから、「**救い主(メシヤ)**」と、自己主張してもらっては困る、このままでは、葬りされしかない、考えました。
- ⇒主のたとえの狙いは、23節で、弟子たちは、**神の聖霊**を受けて、祝福されているのです。
- ⇒**マタイ13:21**は、**イザヤ書6:9～10**を背景にしています。祭壇の火が**イザヤの口**に触れ、不義が取り除かれ、**イザヤ**が果たすべき役割を示された箇所です。
- ⇒あなたは、後ろを振り向くなです。

本論；

◇本日、**マタイ書13章13:1～9、18～23節**
から主の**使信**に**思い・心**νοῦς(nouj)をとめます。

◆**マタイ13章1～9、18～23節**；使徒**マタイ**は、
弟子たちを励ましておられます。

◇**13:13:1～9、18～23節**；塚本訳

◆種まきの譬

- 「1 その日イエスは家を出て、湖のほとりに坐って(教えて)おられたが、
- 2 大勢の群衆が集まってきたので、舟に乗って坐られた。群衆は皆岸に立っていた。
 - 3 譬をもって多くのことを語られた。——「種まく人が種まきに出かけた。
 - 4 まく時に、あるものは道ばたに落ちた。鳥が来て食ってしまった。
 - 5 あるものは土の多くない岩地に落ちた。土が深くないため、すぐ芽を出したが、
 - 6 日が出ると焼けて、しっかりした根がないので枯れてしまった。
 - 7 あるものは茨の(根が張っている)間に落ちた。茨が伸びてきて押えつけてしまった。
 - 8 しかしあるものは良い地に落ちた。そしてある

いは百倍、あるいは六十倍、あるいは三十倍の実がなった。

9 耳のある者は聞け。」

◆種まきの譬の説明

18 だからあなた達には種まく人の譬を説明してあげよう。――

19 だれでも御国の言葉を聞いて悟らないと、悪者[悪魔]が来て、心の中にまかれたものを奪ってゆく。これは道ばたにまかれた人である。

20 岩地にまかれたもの、これは御言葉を聞いてすぐ喜んで受け入れるが、

21 自分の中に(しっかりした信仰)の根がなく、ただその当座だけであるから、御言葉のために苦難や迫害がおこると、すぐ信仰から離れおちる人である。

22 茨の中にまかれたもの、これは御言葉を聞くが、(しばらく信じているうちに、)この世の心配や富の惑わしが御言葉を押えつけて、みのらない人である。

23 しかし良い地にまかれたもの、これは御言葉を聞いて悟る人で、きっと実を結び、ある

いは百倍、あるいは六十倍、あるいは三十倍になるのである。」と、**使徒マタイ**は主のことばを語っています。

◇**マタイ13:1～9節**；「その日イエスは家を出て、湖のほとりに坐って(教えて)おられたが(1)」、「大勢の群衆が集まってきたので、舟に乗って坐られた。群衆は皆岸に立っていた(2)」、「譬をもって多くのことを語られた。——「種まく人が種まきに出かけた(4)」、「まく時に、あるものは道ばたに落ちた。鳥が来て食ってしまった(5)」、「あるものは土の多くない岩地に落ちた。土が深くないため、すぐ芽を出したが(6)」、「日が出ると焼けて、しっかりした根がないので枯れてしまった(7)」、「あるものは茨の(根が張っている)間に落ちた。茨が伸びてきて押えつけてしまった(8)」、「しかしあるものは良い地に落ちた。そしてあるいは百倍、あるいは六十倍、あるいは三十倍の実がなった(9)」、「**御子イエス・キリスト様**」は、「弟子たち」に、譬えを通して、「良い地」が、いかに祝福されているかを示しておられます。

⇒道、岩地、茨の地を弟子を評価するために

語られたのではなく、そのような土地だったのに今は、主の恵みによって、良い地に変えられていると励ましておられます。

⇒今あるは、主の恵みです。

◇**マタイ18～23節**；「だからあなた達には種まく人の譬を説明してあげよう(18)」、「だれでも御国の言葉を聞いて悟らないと、悪者[悪魔]が来て、心の中にまかれたものを奪ってゆく。これは道ばたにまかれた人である(19)」、「岩地にまかれたもの、これは御言葉を聞いてすぐ喜んで受け入れるが(20)」、「自分の中に(しっかりした信仰)の根がなく、ただその当座だけであるから、御言葉のために苦難や迫害がおこると、すぐ信仰から離れおちる人である(21)」、「茨の中にまかれたもの、これは御言葉を聞くが、(しばらく信じているうちに、)この世の心配や富の惑わしが御言葉を押えつけて、みのらない人である(22)」、「しかし良い地にまかれたもの、これは御言葉を聞いて悟る人で、きっと実を結び、あるいは百倍、あるいは六十倍、あるいは三十倍になるのである(23)」、「**御子イエス・キリスト様**」は、

「種まく人の譬を説明してあげよう(18)」と、弟子たちに語り、「御言葉を聞く」ことが、大事であることを示しておられます。

⇒ペテロは、主を否み、ユダは裏切りました。

⇒主は、彼らのために、愛し、祈って下さいました。

⇒「**御言葉を聞いて悟る人**」が、弟子たちの姿であることを示されました。

⇒罪を認め、主に頼り、赦された恵みを喜ぶことが大事です。

⇒**イザヤ**は、口が汚れていたのに、不義を赦されてから、**神のことば**を語り続けました。

⇒「〈口語訳〉

Ⅱ テモ 4:2 御言を宣べ伝えなさい。時が良くても悪くても、それを励み、あくまでも寛容な心でよく教えて、責め、戒め、勧めなさい。」

結論；

◇神は、変わらない愛と思いやりの神です。

◇マタイ書は、使徒マタイが、ユダヤ人の立場で王なる救い主(メシヤ)なる神の御子イエス・キリストを証言した記録です。

◇マタイ5～7章は、神の御子イエス・キリスト様の山上の垂訓(説教)の箇所です。

◇本日の**マタイ13:1～9、18～23節**は、「**種まきの譬えと説き明かし(23)**」で、主は、弟子たちを励ましておられるのです。

⇒**ユダヤ人指導者**は、**神の律法**を説き明かすことができましたが、「**御子イエス・キリスト様**」を「**悪霊のかしらベルゼブル**」とし、「**悪霊**」を追い出しているから、「**救い主(メシヤ)**」と、自己主張してもらっては困る、このままでは、葬りされしかない、考えました。

⇒主のたとえの狙いは、23節で、弟子たちは、**神の聖霊**を受けて、祝福されているのです。

⇒**マタイ13:21**は、**イザヤ書6:9～10**を背景にしています。祭壇の火が**イザヤの口**に触れ、不義が取り除かれ、**イザヤ**が果たすべき役割を示された箇所です。

⇒あなたは、後ろを振り向くなです。

⇒〈口語訳〉

ガラテヤ 5:13 兄弟たちよ。あなたがたが
召されたのは、実に、自由を得るためである。
ただ、その自由を、肉の働く機会としないで、
愛をもって互に仕えなさい。